

子どもと女性の
健康相談室

79



福島医大ふくしま子ども
女性医療支援センター教授
西郡 秀和氏

厚生労働省の「イクメンプロジェクト」に代表されるように、父親の育児参加促進に向けた社会的な取り組みが行われています。この10月には「産後パパ育児（出産時育児休業）」が施行され、父親の育児休業促進が強化されました。ある調査によると、男性新入社員の約8割が育児休業取得を希望しているという報告があります（日本生産性本部）。

は、①子どもの社会性の発達と運動の発達への良い影響②子どもの行動問題の予防③子どもの不慮の事故のリスク低下④子どもの肥満のリスク

す。一方で、育児参加している父親の中には、家庭で子育てをしていることの正当性や、男性としてのアイデンティティーな

性の発達への負の影響につながります。ボンディング障害は、わが子とのおしく思い、親として守ってあげたいと思うといった、親が子どもに

周囲のサポート不足が指摘されています。これらの父親のメンタル不調は、母親と同様に約1割にのぼることもわかっており、決してまれではないことを認識する必要があります。

従来、父親の育児参加は、母親の育児負担・育児不安の軽減といった「育児のサポート者」と

精神の不調 父親にも

低下につながる可能性が報告されています。また、父親の育児参加は、①母親の育児不安・育児負担感の減少②夫婦関係や母親のメンタルヘルスの向上③子どもにも良い影響を与えることが報告されています。

抱く情緒的な絆の欠如であり、①養育の拒否②ネグレクト③身体的虐待に発展する可能性があります。

さらに、父親にも母親と同様に、産後うつやボンディング障害などのメンタルヘルスの不調があることがわかっています。父親の産後うつは、①母親の産後うつと合わせてリスク②父親の育児行動の量・質の低下③子どもの情緒・行動・社会

さらに驚くことに、育児を取得した父親は、ボンディング障害となるリスクが高いことが報告されています。その理由として産前からの父親の育児に対する準備不足や、

しての視点から期待されていた。産後のパパ育児「促進に向けては、「育児の当事者」としての父親育児学級、父親のニーズ把握、父親のメンタルヘルスケア体制の整備など、子どもが生まれる前からの切れ目のない父親への支援体制の構築が大切です。

父親の育児参加は子どもの発達にプラスの影響を与えます。父親が育児に積極的に関与し、家で遊んだり、子どもを外に連れ出したりすること

父親の産後うつと合わせてリスク②父親の育児行動の量・質の低下③子どもの情緒・行動・社会

父親の産後うつと合わせてリスク②父親の育児行動の量・質の低下③子どもの情緒・行動・社会

父親の産後うつと合わせてリスク②父親の育児行動の量・質の低下③子どもの情緒・行動・社会

父親の産後うつと合わせてリスク②父親の育児行動の量・質の低下③子どもの情緒・行動・社会

産後のパパ育児

父親の産後うつと合わせてリスク②父親の育児行動の量・質の低下③子どもの情緒・行動・社会

父親の産後うつと合わせてリスク②父親の育児行動の量・質の低下③子どもの情緒・行動・社会

父親の産後うつと合わせてリスク②父親の育児行動の量・質の低下③子どもの情緒・行動・社会